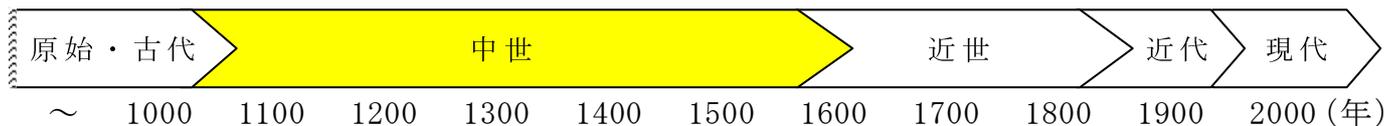


4 武士の成長とひろしま ～ 厳島神社と平清盛～



1 世界文化遺産である厳島神社とはどのようなものなのでしょうか？

厳島神社がある宮島は、「日本三景」の一つに挙げられ、日本を代表する観光地として多くの人々が訪れています。

1996(平成8)年、厳島神社はユネスコの世界文化遺産に登録されました。厳島神社の登録理由について、日本ユネスコ協会連盟ホームページには、「自然とあり続ける朱丹の神殿」という見出しで、「海上にそびえたつ朱塗りの大鳥居が印象的な厳島神社は、その美しい建物群だけではなく前景には瀬戸内海、背景には神の山とされる瀨山を配し、見事な自然と文化の調和を表現しています。世界遺産としてもその価値を評価されて、周辺の自然地域も含めて登録されました。」と述べられています。



厳島神社の社殿(国宝)と大鳥居(重要文化財)(撮影:新谷孝一)

この厳島神社を厚く信仰し、現在のように海上に浮かぶような形に大改修を行ったのは、平清盛です。



なぜ、平清盛は厳島神社を厚く信仰し、大改修を行ったのでしょうか？

2 厳島神社はどのような歴史があるのでしょうか？

「厳島(いつくしま)」は、元々「伊都岐(伊都伎)島」と書かれ、「いつきしま」と呼ばれていました。

「いつき」とは、「齋き」と書き、「身を清めて神様にお仕えすること」という意味です。つまり、厳島は「神様をお祀りする島」なのです。そして、「いつきしま」の発音が次第に「いつくしま」と発音されるようになったものと考えられています。



大鳥居の扁額
□沖側(写真右)と神社側(写真左)とで表記が違います。

年	おもなできごと
593	巖島神社が創建される
1151	平清盛が安芸守となる ※この頃に巖島神社の大改修を行う
1160	平清盛が巖島神社に参詣する
1164	「平家納経」が奉納される
1167	平清盛が太政大臣となる
1174	後白河法皇らが巖島神社に参詣する
1278	一遍(時宗の開祖)が巖島神社を訪れる
1389	足利義満が巖島神社を訪れる
1555	毛利元就が巖島で陶晴賢を滅ぼす(巖島合戦)
1561	毛利元就と隆元が大鳥居を再建する
1571	毛利元就によって本殿が改築される
1587	豊臣秀吉が千畳閣を建立する
1602	福島正則が平家納経を修復する
1643	林春斎が『日本国事跡考』を著し、松島、天橋立とともに「為三処奇観」と書き記す ※「日本三景」と呼ばれるはじまり
1923	巖島全島が史跡・名勝に指定される
1952	巖島全島が特別史跡・特別名勝に指定される
1954	平家納経が国宝に指定される
1996	巖島神社が世界文化遺産に登録される

巖島神社に関するおもなできごと

るなど政権を握った歴史上の人物とも深い関係がありました。

1643(寛永20)年には、全国を旅した儒学者の林春斎の『日本国事跡考』がきっかけとなり、松島(宮城県)や天橋立(京都府)とともに「日本三景」と呼ばれるようになりました。

3 平清盛とはどのような人物だったのでしょうか？

平清盛は、1118(元永元)年に平忠盛の長男として生まれました。海賊を取り締まり、日宋貿易にもかかわった忠盛の跡を継いだ清盛は、対立する武士を打ち破るとともに、天皇家や藤原氏との関係を深めて勢力を強めます。特に1156(保元元)年の保元の乱、1159(平治元)年の平治の乱に勝利し、源氏の勢力を弱めたことで最も強い力を持つ武士になりました。

1167(仁安2)年には、武士では初めて朝廷の最高職である太政大臣になりました。また、領地や荘園などを各地に広げるとともに日宋貿易にも力を入れます。清盛は、武力や朝廷での地位、領地や荘園、貿易から得られる財力などを背景に強大な権力を手に入れたのです。

『平家物語』などでは、強大な権力を背景に強引に物事を押し進めた人物として描かれ

巖島神社は何度か建て替えられていますが、最初に建立されたのは593年で地元の豪族である佐伯鞍職によるものと伝えられています。

1151(仁平元)年に平清盛が安芸守になった頃から平氏と巖島神社のかかわりは密接になり、やがて清盛は巖島神社の大改修を行いました。社殿は、寝殿造の美しさに加え、海上に浮かぶような神秘的なたたずまいで「極楽浄土をあらわした」と言われています。

1555(弘治元)年には、毛利元就(→P26)と陶晴賢による巖島合戦の舞台となり、その後には毛利家ともかかわりを強めていきました。現在の本殿は、1571(元亀2)年に毛利元就によって改築されたものです。

この他に、1389(元中6・康応元)年に足利義満が訪れたり、1587(天正15)年に豊臣秀吉が千畳閣を建立したりす



『天子撰関御影』の平清盛肖像
(陽明文庫蔵)

る清盛ですが、『愚管抄』という本には「ヨクヨク謹ミテ、イミジク計ラヒテ、彼方此方シケル」という記述もみられます。この文からは、清盛がいろいろな方面に気を配りながら、複雑で不安定な政界を生き抜く力をもっていた人物として捉えられていることが分かります。

4 なぜ、平清盛は厳島神社の大改修を行ったのでしょうか？

清盛は、父に続いて日宋貿易にも力を入れました。この当時、貿易の窓口となっていたのは九州の博多でした。

中国などからの貿易船は、博多の港へ着き、そこから各地へ貿易品が広まっていきました。

清盛は、博多を平家の勢力下に置き続けるとともに博多と都をつなぐ瀬戸内海の航路を

整備していきます。現在の神戸港にあたる大輪田泊の整備も行いました。

呉市の音戸の瀬戸を平清盛が切り開いたという伝説もこのような事業を進める中で生まれたと考えられています。

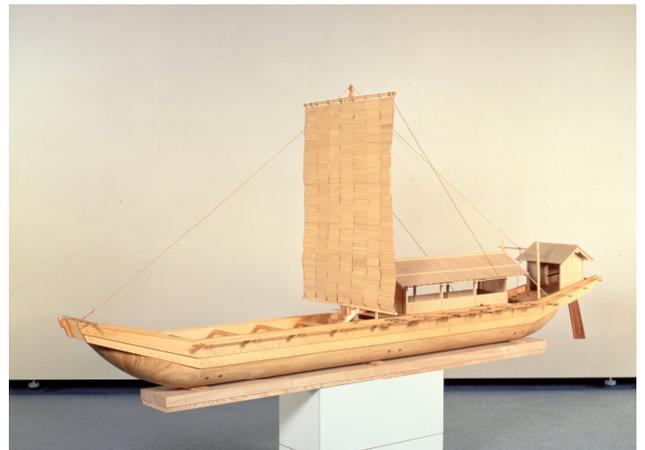
厳島神社を改修し、都から参拝するための航路を整備することは、九州と都とをつなぐ航路を整備することとも重なります。

1164(長寛2)年、清盛は一族の者とともに、きらびやかな装飾をほどこした経典(平家納経)を厳島神社に納めます。これは、平家一門の繁栄と極楽往生を願ったことでした。

海の神として信仰されていた厳島神社でしたが、清盛が再建するまでは、社殿も小規模なものでした。しかし、清盛が大改修を行うと、貴族や天皇の一族も参拝し、厳島神社の権威は高まりました。そして、清盛をはじめとする平家一門は、朝廷の高い位を独占するなど、おおいに繁栄しました。



平安時代後期の日本と中国との貿易ルート



平安時代頃の船の模型
(広島県立歴史博物館蔵)

厳島神社と平清盛の関係について、調べたことや考えたことをもとに自分の言葉でまとめてみましょう！



【もっと調べてみよう！郷土の歴史】

- 厳島神社に実際に行って調べてみよう！
 - ・ 厳島神社は、どのような配置や造りになっているのでしょうか。
 - ・ 厳島神社の周りにはどのような建物があるのでしょうか。
 - ・ 厳島神社の行事である「管絃祭」「玉取り祭」とはどのような祭りでしょうか。
- 厳島神社とかかわりのある歴史上の人物について、調べてみよう！
 - ・ なぜ、毛利元就と陶晴賢は厳島で戦ったのでしょうか。
 - ・ なぜ、足利義満は厳島神社を訪れたのでしょうか。
 - ・ なぜ、豊臣秀吉は千畳閣を建立したのでしょうか。
- 身近な地域にある神社や寺院について調べてみよう！
 - ・ 身近な地域にある神社や寺院は、いつ頃、どのような経緯で、誰が中心となって建立したのでしょうか。

厳島神社は、教科書に出てくる多くの歴史上の人物とかかわりがあったんだね。



◇ 厳島神社宝物館

住所：廿日市市宮島町 1-1 TEL：0829-44-2020

※平家一門をはじめ、時の権力者たちが奉納した美術工芸品が展示されています。

◇ 廿日市市宮島歴史民俗資料館

住所：廿日市市宮島町 57 TEL：0829-44-2019

◇ 一般社団法人宮島観光協会

住所：廿日市市宮島町 1162-18 TEL：0829-44-2011

HP

【もっと知りたい！郷土の歴史】

都の文化をひろしに ～宮島の舞楽(廿日市市)～

厳島神社の社殿が、平安貴族の邸宅などにみられる寝殿造となっていることから分かるように、清盛は、京の貴族の文化を厳島神社に伝えました。

厳島神社では、毎年、大潮の旧暦6月17日に管絃祭が行われます。この管絃祭は、都の貴族の遊びを神事に取り入れたものです。

厳島神社の祭典で舞われる舞楽も、奈良や大阪で舞われていたものを、清盛が取り入れたと言われています。清盛は、厳島神社の社殿を再建するとともに、舞楽の奉納にも熱心で、現在でも厳島神社には、平家一門が1173(承安3)年に奉納した舞楽に使う面が伝わっています。

舞楽は、大陸や朝鮮半島から伝わり大きな寺院などで舞われていた楽舞(音楽と舞)が、平安時代に日本古来の音楽と再編成されて誕生したもので、厳島神社の舞楽は、大阪四天王寺の舞楽の影響を強く受けています。

厳島神社には、この他にも日本を代表する芸能の一つである能も伝えられ、現在まで引き継がれています。



舞楽・蘭陵王
(撮影：新谷孝一)

厳島神社では実際に舞楽がみられるよ。年中行事を確認して行ってみよう！

